

**新しい地方経済・生活環境創生交付金
(1.第2世代交付金、2.地域防災緊急整備型)
事業の実施状況**

総合計画審議会

令和7年(2025年)8月18日

新しい地方経済・生活環境創生交付金について

新しい地方経済・生活環境創生交付金

第2世代 交付金

地方がそれぞれの特性に応じた発展を遂げることができるよう、日本経済成長の起爆剤としての大規模な地方創生策を講ずるため、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく、地域の多様な主体の参画を通じた地方創生に資する地域の独自の取組を、計画から実施まで強力に後押し。

最先端技術教育の拠点整備・実施
(ソフト・ハードの一体的支援)



農産物直売所・多世代
交流施設の一体的な整備
(分野横断的な支援)



地域の多様な主体が参画する
仕組みの構築



国の伴走支援の強化



デジタル実装型

デジタル技術を活用した地域の課題解決や魅力向上に
資する取組を支援

書かない窓口



地域アプリ



オンライン診療



地域防災 緊急整備型

避難所の生活環境を抜本的に
改善するため、地方公共団体
の先進的な防災の取組を支援

地域産業構造転換 インフラ整備推進型

半導体等の戦略分野における
国家プロジェクトの産業拠点
整備等に必要な関連イン
フラの整備を機動的かつ追加
的に支援

○本資料は、新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用して実施する事業についての報告資料です。

○同交付金を活用して実施する事業は、下記2点が前提となっていることから、これらを満たす事業を抽出したうえで、それぞれのプロジェクトとして取りまとめています。

- ・総合戦略に基づく事業であること
- ・その他の国の補助金等が該当しないこと

○本市における地方版総合戦略として第8次総合計画を位置付けています。

1.第2世代交付金

○令和7年度は、下表に記載のプロジェクトが同交付金事業として採択されています。

※下記のうち、1、2、7は企業版ふるさと納税の活用により交付金の申請期間が2年間延長されている。

申請事業名	新規・継続 (事業期間)	R7年度 交付決定額 (千円)	(参考)		
			R7年度 事業費 (千円)	R8年度 事業費 (千円)	R9年度 事業費 (千円)
新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)		348,456	696,914	950,547	704,933
1. 創業支援と地場企業の強化によるくまもと創生プロジェクト	継続 (R4～8年度)	73,090	146,181	146,181	
2. 花とみどりの魅力ある「森の都」再生プロジェクト	継続 (R5～9年度)	36,700	73,400	48,933	48,933
3. 民間活力を活用した健康づくり(介護予防)事業	継続 (R5～7年度)	14,500	29,000		
4. 国内外からの観光客誘客促進事業	継続 (R6～8年度)	40,750	81,500	85,000	
5. 郷土の文化を活かした観光客誘客促進事業	新規 (R7～9年度)	1,750	3,500	5,100	4,000
6. 熊本市動植物園サバンナエリア(開園100周年記念エリア)整備事業	新規 (R7～9年度)	175,000	350,000	652,000	652,000
7. 国際スポーツ大会を契機とした観光基盤整備プロジェクト (県との広域連携事業)	継続 (R4～8年度)	6,666	13,333	13,333	

【R4～R8年度採択事業】

熊本地震からの復興需要の剥落やコロナ禍による地域の産業競争力の低下に歯止めをかけるため、創業や起業支援による新たな事業所の創出や企業の技術革新の支援により地域に活力を生み出すとともに、質の高い多様な雇用の場を拡大することによって若者の転出を抑制し、若者が活躍するまちを実現する。



ビジネス支援施設「XOSS POINT.(クロスポイント)」(熊本市西区春日)

(1) 創業支援

- 成長が期待される市域内のスタートアップ等の事業成長に対し、伴走的なサポートを実施し、将来の地域経済をけん引する企業の育成を図り、地域経済の活性化、雇用の安定確保に繋げる。
- イノベーションを持続的に創出する熊本市版スタートアップエコシステムを構築する。
- 令和4年度からリニューアルオープンした「XOSS POINT. (クロスポイント)」を本市における創業支援の中心として位置づけ、スモールビジネスからスタートアップ等まで幅広い支援を求める創業者が集い、繋がる場を創出し、創業やその先の事業成長へ繋げる新たな環境作りに取り組む。

(2) 技術革新の支援

- 産学官連携により地場中小企業の技術革新や経営革新を支援し、高付加価値化した製品や新事業が次々に創出される環境を整える。
- スマートシティ推進のための官民連携プラットフォームを設置し、官民連携の活性化、イノベーション創発を促進することで、新規ビジネスの創出に繋げるなど、スタートアップやベンチャー等を含む企業の支援を図る。
- 地場中小企業のDX推進に必要なデジタル技術への対応や導入支援を行うことができる人材の育成を行うため、セミナー開催や専門家による伴走支援などを実施する。
- 関連産業が多く存在するeスポーツビジネスへの域内企業の参入、eスポーツを活用した新事業展開によるイノベーション創出を促進する。

KPI		現状値 (R3)	R4	R5	R6	R7
①くまもと森都心プラザビジネス支援施設を契機とした創業者数(人)	目標値	－	25	30	32	34
	実績値	18	28	45	47	測定中
②支援事業を通じたスタートアップ等による資金調達件数(件)	目標値	－	18	30	40	50
	実績値	0	28	45	37	測定中
③支援事業を通じた製品化・事業化件数(件)	目標値	－	5	8	10	12
	実績値	0	7	1	9	測定中

【R7年度における取組】

✓令和7年6月に「第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市」に選定されたことを受け、これまでに増して、半導体・デジタル分野を中心に、医薬・農水産分野など、熊本から世界に挑戦し、グローバルに成長するスタートアップの創出に取り組む。また、ミドルステージ以上の企業を対象とした支援を拡充するとともに、スタートアップワールドカップ2025九州予選を本市で開催することで、大企業や投資家との繋がりを作り、資金調達や事業提携等を促し、域内企業の更なる成長を図る。

✓助成制度による資金支援や、産学連携コーディネーターによる大学等の研究シーズと企業ニーズとの小規模マッチング会等の実施を通じ、さらなる新事業の創出を図る。

【R5～R9年度採択事業】

本市で開催した全国都市緑化フェア(R4.3～5)では、県内外から多くの来訪者(約168万人)が訪れ、賑わいが生まれると同時に花や緑に関する市民の意識が高まる機会となり、改めて花や緑が人々に与える影響の大きさを再認識することとなった。本事業では、こうした賑わいの創出や機運の高まりを一過性のものに終わらせることなく、緑を感じる都市空間の形成や市民一人ひとりの緑化活動の向上等を図り、魅力ある「森の都くまもと」ブランドの再生を実現する。

また、花や緑を通じた中心市街地の活性化と回遊性の向上による交流人口の拡大や、地域の魅力や特性を生かしたまちづくりを推進し、ひいては将来的な移住・定住の促進に繋げる。



中心市街地の活性化
回遊性の向上による交流人口の拡大



地域の魅力や特性を生かした
まちづくりの推進

将来的な移住・定住の促進

(1)都市空間緑化創出事業

■花や緑を活用し、潤いと癒し、緑の豊かさを創出し魅力ある「森の都」を演出する。また、併せて、緑化の取組の紹介など広報活動も積極的に行い、市民の緑化意識を継続的に維持・高揚させていく。

(2)花や緑の体験に関する事業

■身近にある花や緑を知って学び、遊んで親しむ体験を通して、自然(資源)のあり方や利活用を考え、身近にある自然との新たな向き合い方を発見する事業を実施する。

(3)ステークホルダー育成事業

■市民(ボランティア等)協働の修景花壇設置や、緑に関する講習会等の参加機会を提供することで、緑の大切さや緑化に関する知識の普及、既存ステークホルダーの意欲向上や、森の都を築く新たな担い手の育成を図る。

KPI		現状値 (R4)	R5	R6	R7
①中心市街地における1日当り本イベント最大参加総人数/休日(ボランティア・市民団体キャスト含む)(人)	目標値	—	32,266	41,219	50,172
	実績値	23,313	32,513	41,513	未実施
②花と緑に関連する熊本市全体のボランティア団体数や市民団体数(団体)	目標値	—	621	626	631
	実績値	616	621	626	測定中
③中心市街地における緑視率の割合(%)	目標値	—	7.14	8.57	10.00
	実績値	5.71	7.21	8.71	測定中
④スポンサー花壇における協賛企業数(社)	目標値	—	20	22	24
	実績値	18	18	18	※ 18

【R7年度における取組】

※R7.5.31時点

✓①については、R7.11.15～24の期間でくまもと花博2025を開催。土日祝日の集客は5万1千人/日を目指し事業を進めている。

✓②については、自治会(公園愛護会)や地域団体等に花の苗を年2回配布し、団体数増加を図る。

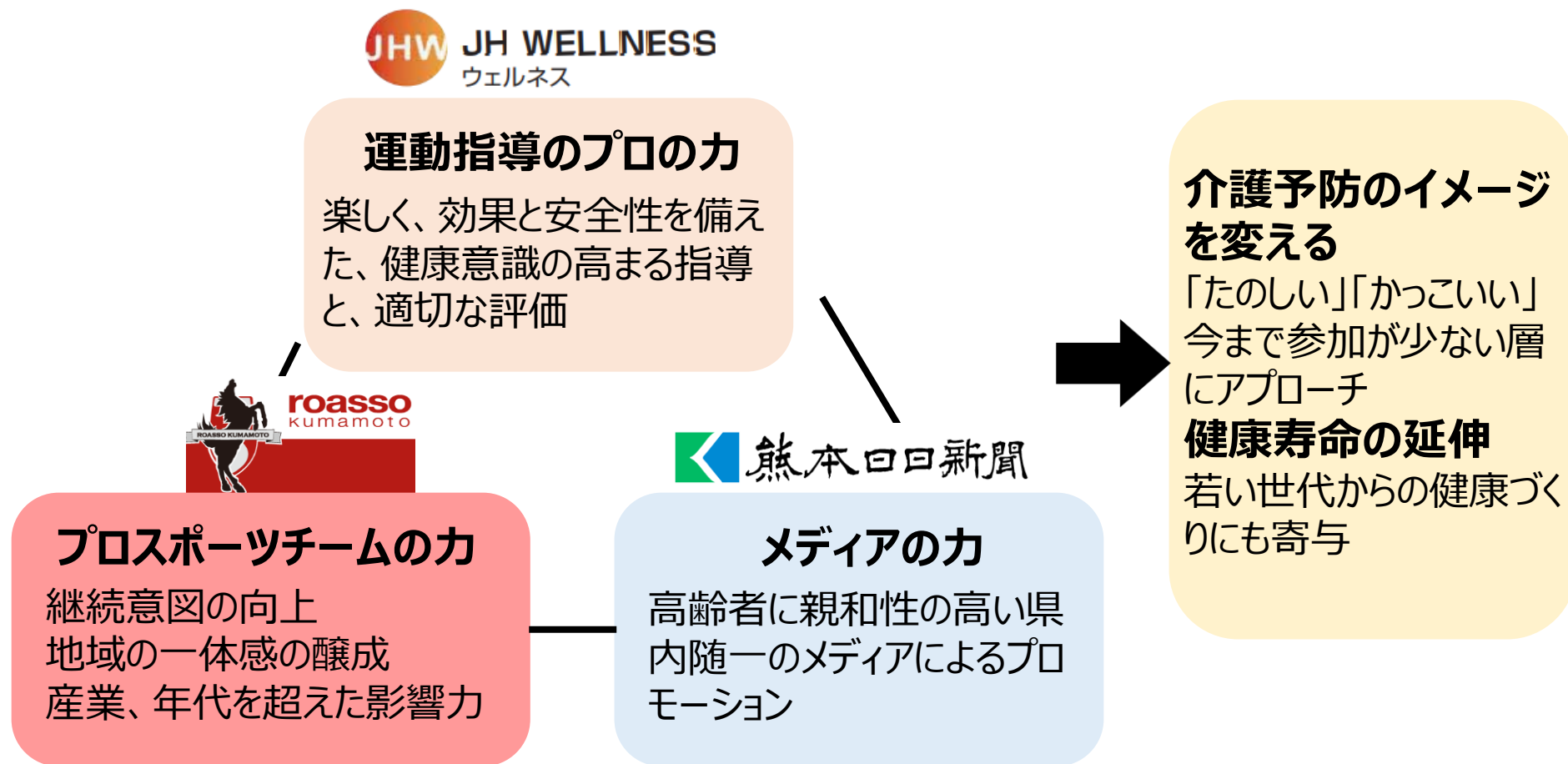
✓③については、R7.10に調査実施予定。

✓④については、現在募集中でR7.5.31現在で18社。

【R5～R7年度採択事業】

誰もが健康で生きがいを持って暮らすことができるまちの実現を目指し、誰でも気軽に、自主的に健康づくりに取り組むことができる持続可能な環境を構築する。

そのために、成果連動型民間委託契約方式(PFS)を採り、各ステークホルダーが連携しつつ共通の目標に向けて取り組むとともに、効果(データ)の見える化や行動経済学(ナッジ)を取り入れた働きかけを行う。



(1)民間活力を活用した市主催の介護予防教室の実施

- 理学療法士等の監修による専門プログラムの開発
- プロスポーツチームと連携したプログラムの実施
- 成果連動型民間委託契約方式(PFS)によるプロジェクトの実施
- 市営・民間施設等あらゆる社会資源を活用し、通いの場のない地域から優先的に実施(通いの場の空白地域をなくす)

(2)プログラム終了後の活動継続の仕掛け

- 効果(データ)の見える化や行動経済学(ナッジ)を取り入れた活動継続の働きかけ
- 多様な運動継続の場(通いの場合含む)への移行支援

(3)データの活用

- プログラムを通じて収集した対象者の基本情報や運動機能評価のデータを分析し、対象者ごとの個別プログラムを提案するとともに、市のビッグデータ(介護保険、KDBなど)と併せて分析することで、プログラムそのもののアップグレードを図っていく

KPI		現状値 (R4)	R5	R6	R7
①厚生労働大臣が定める「基本チェックリスト」の改善(運動機能に関する質問項目5項目のうち、3項目以上の該当者が、2項目以下となる)(70%の改善率)(%)	目標値	－	65	70	75
	実績値	0	71.9	52.6	-
②運動習慣がない者のうち、運動習慣を持つようになった者の割合(%)	目標値	－	55	60	65
	実績値	0	66	81.5	-
③プログラム参加者の参加率(%)	目標値	－	65	70	75
	実績値	0	83	82.4	-

【専門プログラム(ロアツソウェルネスプログラム)の概要】

✓理学療法士等の監修による専門プログラム

※1クール3ヶ月・12回(1回60分)の運動指導

※初回と最終回に運動機能評価を実施 個別プログラムを提案

✓R6年度は、50歳以上(R5年度は65歳以上)方450名を対象に介護予防教室を開催

【R7年度における取組】

✓第1期(7月～10月)は、市内7会場で開催

✓今後、第2期(11月～2月)実施予定

R7年度は、40歳以上方450名を対象に介護予防教室を開催

【R6～R8年度採択事業】

半導体関連企業等の熊本進出を好機と捉え、観光客が訪れる熊本城を舞台に本市ならではのナイトタイムエコノミーに取り組むとともに、多言語化や、SNSを活用した情報発信など多角的に事業を展開することで、国内外からの観光客誘致をさらに促進し、観光産業の活性化及び地域経済発展につなげ、交流人口の拡大を図るもの。

■ナイトタイムエコノミー推進プロモーションの実施



■熊本城周辺でのプロジェクションマッピング等による夜間景観の魅力拡大



(1) ナイトタイムエコノミー企画推進事業

- レーザーライトによる熊本城天守閣のライトアップや、人の動きに連動する灯りのオブジェ設置など、夜の魅力拡大事業を実施
- 飲食店を中心としたガイド付き体験ツアー造成を実施

(2) 観光客受入環境整備事業

- 観光案内サイン改修計画の検討に向けた現状把握のための調査を実施
- ヴィーガン、ベジタリアン等の多様な食文化を有する旅行者に対応できる飲食店・宿泊施設等の充実を図るため、セミナー及びメニュー開発支援を実施
- 地域通訳案内士の認定及び研修を実施

(3)観光客誘客促進事業

- 世代やニーズに合わせ費用対効果が高いInstagramやYouTubeなどのSNSを活用した情報発信をを実施

(4)台湾誘客事業

- 阿蘇市、上天草市等との連携により現地旅行博へ出展し、旅行会社との商談や熊本城おもてなし武将隊を活用したプロモーション等を実施
- 台湾市場向け繁体字のInstagramによる情報発信を実施

(5)戦略推進事業

- 観光マーケットリサーチ(施策の検討、検証のための市場調査、動態調査等のデータ分析)を実施
- 高付加価値旅行者等向けホテルの誘致に関する基礎調査を実施
- レスポンシブルツーリズムの推進に向けた動画コンテンツ制作等を実施

KPI		現状値(R5)	R6	R7	R8
①観光消費額(億円/年)	目標値 ※()内は交付金申請時の 数値	—	714	814	914
	実績値	614(R4)	934(R5)	-	-
②市内宿泊者数(人/年)	目標値 ※()内は交付金申請時の 数値	—	2,780,598	2,950,598	3,120,598
	実績値	2,610,598 (R4)	3,533,497 (R5)	-	-
③旅行者の満足度(%)	目標値	—	64.5	66.5	68.5
	実績値	62.5	68.5	-	-
④ナイトタイムコンテンツの作成数(回/年)	目標値	—	2	3	4
	実績値	0	2	測定中	-

【R7年度における取組】

✓「夜の魅力」を活用する観光コンテンツとして、熊本城および熊本城界限において、灯りやミスト等による演出を施すことで熊本の夜間景観の魅力拡大企画を実施予定。

✓観光客誘客促進事業として、熊本市観光ガイドの公式Instagram等でのプロモーションを実施予定。

✓台湾現地旅行博に熊本城おもてなし武将隊を派遣し、ステージでのパフォーマンスやブースでの来場者、メディア対応による熊本のPRを実施予定。

【R7～R9年度採択事業】

令和8年は明治期の文豪夏目漱石が来熊して130周年にあたり、翌年は生誕160周年にあたる。熊本が誇る歴史・文化資源に注目が当たるこの機会に、文化施設の補修・改装を行うとともに、観光素材としての磨き上げや誘客の取組を通じて、熊本市を歴史文化豊かな都市として全国及び世界へPRするとともに、熊本市を訪れた観光客の県内各地域への誘客、観光などによる交流人口の拡大につなげていく。



【小泉八雲熊本旧居】



【夏目漱石内坪井旧居】

(1)認知度・愛着の向上

- 小泉八雲旧邸や夏目漱石旧居等、歴史的文化施設に絡めたイベントを開催

(2)環境整備

- 小泉八雲旧邸の展示リニューアル・多言語化等を実施

(3)観光誘客促進

- 連続テレビ小説の放送を契機とする、交通事業者やNHKを含む各種メディア等と連携したPRの展開
- 周遊マップの制作による市内ドラマスポットや周辺観光地への誘客

KPI		現状値(R6)	R7	R8	R9
①熊本市の観光消費額(億円/年)	目標値 ※()内は交付金申請時の 数値	—	934.2	934.4	934.6
	実績値	934 (R5)	—	—	—
②熊本市の宿泊者数(人/年)	目標値 ※()内は交付金申請時の 数値	—	3,533,897	3,534,297	3,534,697
	実績値	3,533,497 (R5)	—	—	—
③小泉八雲熊本旧邸、 夏目漱石旧居の来館者数(人/年)	目標値	—	15,643	16,243	16,843
	実績値	15,043 (修正前212,009)	—	—	—

【R7年度における取組】

✓小泉八雲熊本旧居の展示多言語化・AR展示導入予定。

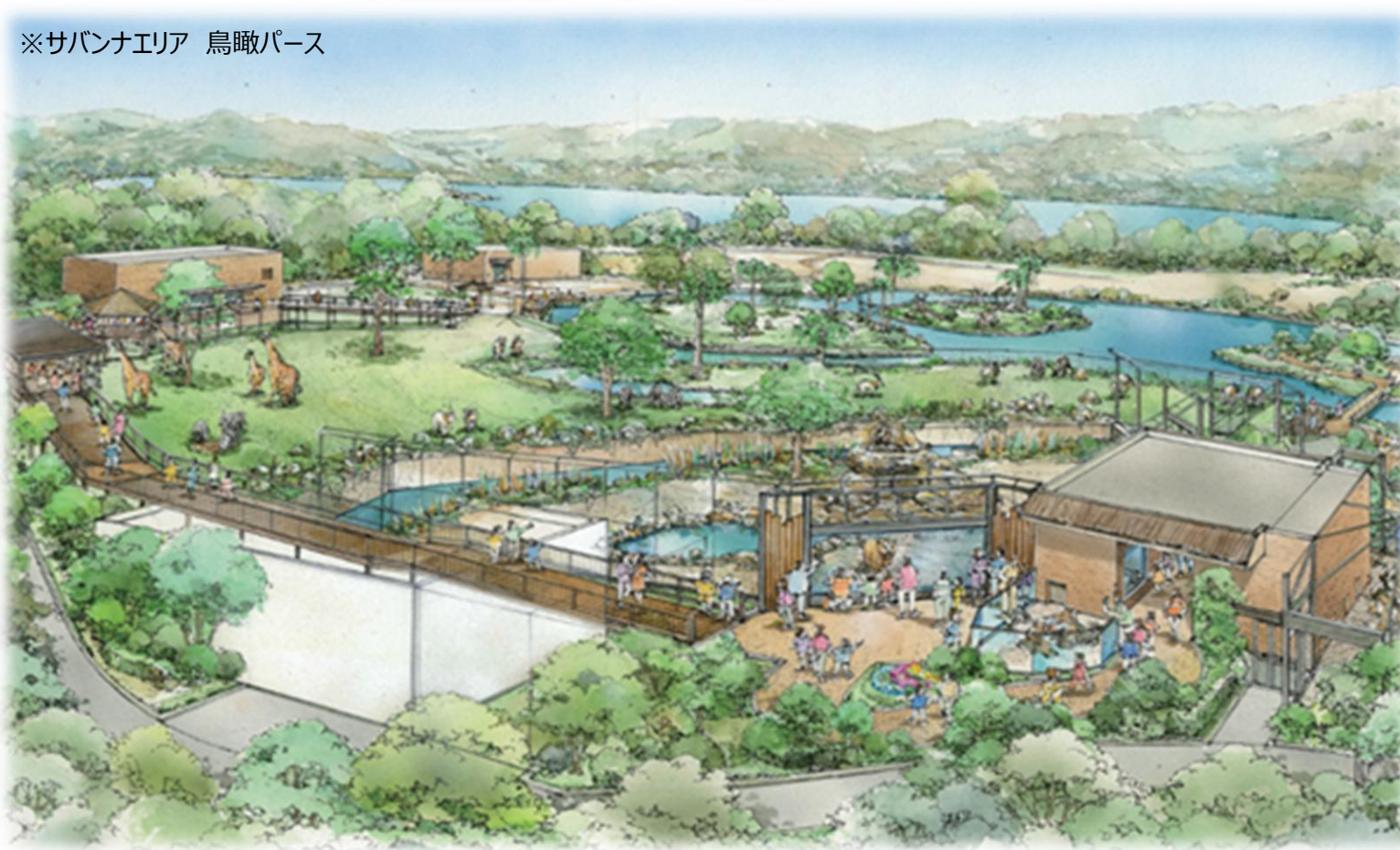
展示内容を英語・中国語・韓国語で表記(QRコードでの読み取り式を想定)

旧居内で、八雲直筆の妖怪などのキャラクターをARで観覧・撮影できるようにする。

【R7～R9年度採択事業】

「サバンナエリア(開園100周年記念エリア)」として大規模なリニューアルを行うことで、多様化・個性化する旅行者ニーズに対応し来園者数の増加を図るとともに、観光客の周遊観光を促進し、市内滞在時間の延長や滞在日数の増加を目指すことにより、滞在型観光の推進に寄与し、観光消費額の増加を実現するもの。

※サバンナエリア 鳥瞰パース



(1)既存施設解体等

■サバンナエリア整備にあたり、既存施設の解体、樹木の伐採・撤去、用地造成、設備盛替を行う。なお、各既存施設解体等については、整備スケジュールや工事ヤードの確保の観点から順次実施する。

- ・2025年度 / 樹木伐採・撤去、給排水設備、電気設備、排水管盛替工事、
草食獣舎等解体工事
- ・2026年度 / パプアニューギニア館・爬虫類館解体工事
- ・2027年度 / 旧キリン舎解体工事

(2)サバンナエリア獣舎整備

■新獣舎の整備を行う

- ・2025年度～2026年度 / キリン舎建築工事(設備工事含む)
- ・2026年度～2027年度 / ライオン舎建築工事(〃)、
マンドリル・ヤマアラシ舎建築工事(〃)
- ・2027年度～2028年度 / 草食獣舎建築工事(〃)
- ・2027年度 / マンドリルケージ建築工事

(3) サバンナエリア放飼場整備

■ 広大なサバンナの大地のなかに広がる水辺や低木林を再現するなど本来の生息環境に出来るだけ近づけるための整備を行う。

- ・2026年度 / 混合放飼場整備工事(設備工事含む)、
ライオン飼場整備(その1)工事(設備工事含む)
- ・2027年度 / マンドリル放飼場整備工事、
ライオン飼場整備(その2)工事(設備工事含む)

(4) 餌やりデッキ等整備

■ 観覧デッキ、キリン隔離用パドック、トイレ等の整備を行う。

- ・2027年度～2028年度 / キリン隔離用パドック整備工事(設備工事含む)
- ・2028年度 / 観覧デッキ整備工事(〃)、
トイレ建築工事(〃)

KPI		現状値(R6)	R11	R12	R13
①観光消費額(億円/年)	目標値	—	1,150	1,225	1,300
	実績値	614(R4)	—	—	—
②熊本市に来訪した旅行者の満足度(%)	目標値	—	75.0	77.5	80
	実績値	62.5(R5)	—	—	—
③開園100周年に向けて目指す来園者数(人/年)	目標値	—	608,744	620,744	632,744
	実績値	596,744	—	—	—
④「熊本市動植物園100周年記念サポーター」制度の寄附件数(件/年)	目標値	—	3,252	3,316	3,380
	実績値	3,188	—	—	—

【R7年度における取組】

- ✓サバンナエリアの整備について、進捗状況を適切に管理をする。
- ✓新たな来園者を獲得するために、夜間開園や、新たなイベント等を実施し園の賑わいを創出する。
- ✓職員が企業等を訪問し、動植物園の魅力、意義をPRし、協賛や協力につなげる。

【R4～R7年度採択事業】

2019年に熊本県が行った大規模国際スポーツ大会の大会運営ノウハウなどのレガシーを引き継ぎ、更に積み重ねるため、本県の強みであるバドミントンの国際大会を定期的を開催することで、交流人口の拡大と地域の活力の増大を図る。

あわせて、社会の変容に応じた新たな観光スタイルに対応することで、大会を契機に熊本を訪れた多くの方の県内周遊の促進や、新たな交流・関係人口の創出を図り、国際スポーツ大会を起爆剤とした更なる経済効果を生み出すことを目指す。

(1)国際バドミントン大会での熊本でおもてなし促進事業

- インフォメーションセンターを設置し、選手・役員や観戦客への誘導対策を実施するとともに、宿泊先不足を解消するための対策を実施
- 国際大会に向けた県産品をPRするためのインバウンド対策や会場のキャパシティに応じたケータリングスペース等の拡充を実施
- 大会役員や選手に向け、多言語でのパンフレット制作等を実施
- 学校観戦で招待することによる大会周知や競技普及の促進や選手の育成等を実施

KPI		現状値 (R3)	R4	R5	R6	R7
①国際大会の観客数(人)	目標値	—	500	20,000	28,000	33,500
	実績値	0	1,534	22,492	28,075	—
②熊本県ワーケーションネットワーク参画事業者等数(者)	目標値	—	10	30	50	70
	実績値	0	23	44	64	—
③滞在・交流プログラム利用者数(人)	目標値	—	60	130	200	270
	実績値	0	110	165	187	—

【R7年度における本市の取組】

- ✓BWF(世界バドミントン連盟)Super500熊本大会実行委員会への負担金拠出により以下の取組を行う。
- ✓大会運営に向けた体制整備を行うとともに、国際大会のテストとなるプレイバントの開催を通じた機運醸成の実施
- ✓熊本マスタースジャパン開催に向けた、大会ホームページを通じた情報発信の実施
- ✓日本バドミントン代表チームの本県でのキャンプ実施に合わせた熊本市民とのバドミントン交流会の実施
- ✓会場内に来場者向けのファンゾーンを設け、県産品等の土産物や飲食店ブースを拡充

2.地域防災緊急整備型

○令和7年度は、下表に記載のプロジェクトが同交付金事業として採択されています。

申請事業名		新規・継続 (事業期間)	R7年度 事業費 (千円)	R7年度 交付決定額 (千円)
新しい地方経済・生活環境創生交付金(地域防災緊急整備型)				
	1. 避難所の生活環境改善(プライバシーの確保・寝床の改善)事業	新規 (R7～9年度)	95,000	47,500

【R7～R9年度採択事業】

避難所における良好な生活環境の確保に向けたプライバシーの確保や寝床の改善の取組として、パーティションや簡易ベッドの備蓄を進めてきたが、未だ必要数に達していないことから、これらを加速度的に整備する。加えて、新たに、食事の質の確保のため、キッチンカーを活用する。また、地域住民と連携し全市的に実施する防災訓練等において、平時の利活用を行うことで地域住民への周知広報を図り、防災意識の醸成につなげる。

簡易ベッド



エアーマット



キッチンカー



テント式パーティション



(1)購入する資機材により目指す地域防災力向上

■避難所における備蓄物資等の配備については、食料、飲料水、毛布など一定程度完了しているものの、近年、災害が頻発化・激甚化する中、より一層の良好な避難所環境の確保に向けた取組みが急務である。

中でも、避難所における床での長期間の寝泊まりや集団生活等に伴う災害ストレスにより、静脈血栓閉栓症(エコノミークラス症候群)を引き起こすことで、死に至る可能性も否定できないことから、本市では、プライバシーの確保や寝床の改善の取組として、パーティションや簡易ベッドの備蓄を進めてきたものの、未だ必要数に達していない状況である。このことから、本市の全ての避難所において、プライバシーの確保や寝床の改善に係る物資等を配備する。加えて、被災者を精神面から支えるため、食事の質の確保に向けて取り組むこととし、その一環として温かい食事を提供するため、新たにキッチンカーを導入する。

なお、これらの取組は、被災者の避難所における生活環境の改善を図るものであり、ひいては地域防災力の向上を目指していく。

(2)購入する資機材の平時の利活用方針

■地域住民と連携した「震災対処訓練」を全市的取組として毎年実施しており、当該防災訓練において購入する資機材等を利活用することで、本市の地域防災力向上の取組みについて住民に対して訴求することとする。なお、実際の避難所開設時に円滑に活用できるように、資機材等の点検・設営訓練等を行うこととする。

(3)避難所のトイレ、キッチン、ベッド、風呂の確保に向けた取り組み

■現状、避難所にパーティション及び簡易ベッドを備蓄しているが、今回、寝床の改善の取組として新たに購入する簡易ベッド等については、避難所に分散設置している備蓄倉庫の容量を踏まえ、複数の集中備蓄倉庫への配備を予定している。なお、これらの資機材は、「熊本市大規模災害時における物資供給計画対応マニュアル」に基づき、100名の市職員からなる特命隊等を活用し、発災後48時間以内に避難所へ配備する。

■発災時の避難所における資機材の運用については、「熊本市避難所開設・運営マニュアルー避難所開設・運営編ー」に基づき、避難所ごとに、「地域団体・避難者」、「避難所担当職員(市職員3名)」、「施設管理者」で構成する「避難所運営委員会」が担うものとする。

さらに、食事の質の確保に向けて新たに導入するキッチンカーの運用については、食材の調達や調理を行う人材の確保を含め、民間事業者との災害時応援協定等を活用するものとする。

なお、毎年、全市的に地域住民と連携して実施する「震災対処訓練」等の機会を活用し、避難所において資機材の点検・設営訓練等を行うことで、避難所開設時に円滑に活用できるように努めるとともに、民間事業者との連携を強化していくものとする。

KPI(アウトプット指標)		現状値(R6)	R7	R8	R9
①パーティションの備蓄数(区画数)	目標値	—	4,800	4,800	4,800
	実績値	4,080		—	—
②簡易ベッド等の備蓄数(台数・枚数)	目標値	—	6,125	6,185	6,245
	実績値	275		—	—
③購入した資機材等の訓練・イベント等での利用件数(件数)	目標値	—	180	190	200
	実績値	—		—	—

【R7年度における取組】

✓パーティション、簡易ベッド等、避難所の環境改善に資する備蓄を整備し、訓練やイベント等で活用する。なお、令和7年度中に、簡易ベッドについては、新たに2,207台、パーティションについては、新たに720張を備蓄する。

KPI(アウトカム指標)		現状値(R6)	R7	R8	R9
①48時間以内にプライバシーや寝床の確保を見込む避難所数(箇所数(パーセント))	目標値	—	201か所 (100%)	201か所 (100%)	201か所 (100%)
	実績値	33か所 (16.4%)	—	—	—
②48時間以内に提供を見込む適温食数(食数)	目標値	—	600	600	600
	実績値	—	—	—	—
③防災の取組に関する住民の認知度(パーセント)	目標値	—	50	55	60
	実績値	—	—	—	—

【R7年度における取組】

✓災害発生から48時間以内に避難所の環境(プライバシーの確保、寝床の確保)を整えるため、パーティションや簡易ベッドの備蓄を進める。また、避難所環境改善のため、温かい食事を提供する目的で、キッチンカーを導入する。防災の取組に関する住民の認知度については、今後も地域と連携した防災啓発活動や訓練を通じて、防災意識の更なる向上を図る。